

JOMA ニュース

海外宣教連絡協力会公報



1992年11月1日発行
NO. 40

発行者：安海 靖郎
海外宣教連絡協力会事務局
〒333 埼玉県川口市前川12-26-17
TEL&FAX 0482(67)9501
郵便振替 数6-106631

「JOMA世界宣教関西セミナー」報告

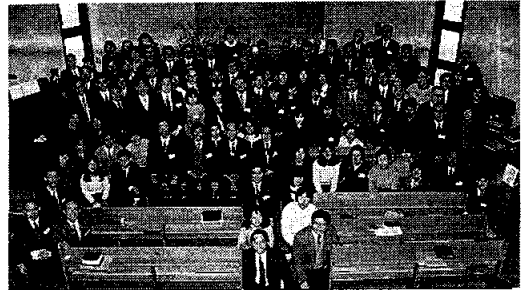
実行委員長：新谷正明

△今回のJOMAセミナーの開催が関西地区で行ないたい旨、JOMA会長の安海師から関西のJOMA加盟・関係団体打診があり、この開催をお引き受けし、関西地区実行委員会が発足したのが、1991年10月6日であった。

今回のセミナーは名古屋・東海地区で予定であったものが、東海地区の都合でどうか、と言ったところであった。関西地区では1985年京都・清和基督教会で開催されて以来のことで、近年関西諸教会が世界宣教への機運の高まりや、近年関西諸教会が関西地区で活躍されていることなどを確信し早速「テーマ、日時、講師、会場、委員の任務分担」などが決定され、準備に入った。開催日時（2月28～29日）までの短い準備期間の中りではあったが、地元の実行委員の牧師たちにより11月～2月の短期間に準備が進められていった。

主講師のユセフ・ロニー師（現インドネシア福音派「インドネシア世界宣教会」の事務局長として活躍されている器である。ユセフ・ロニー師は期待通りの神の器として、3回のメッセージを通してアジアと日本の教会へ、3つの世界宣教のチャレンジをされた。「アジアには3つの未伝地域（グループ）中国、インド、イスラム圏があること。」これはアジアの諸教会への神の挑戦であり、特に日本は他国以上にこの地域に福音を満ちた責任があること。なせなら、農業国から工業国へ移行していること。などをあげ、日本のもっとも良い器を海外へ捧げ送り出すとチャレンジされた。

第1日の夜の宣教大会にはいろいろな教派から216名の参加者があり、宣教師志願者として招きに20数名の方々が献身の壇に上られた。2日間3回の13項目の分科会には120名の教職、信徒の方々が参加された。（登録者145名）各分科会ではそれぞれの専門分野の宣教師（2名）、もと宣教師（7名）、宣教団のスタッフ等（4名）が担当され、短い準備期間でしたが、各分科のレジュメが配ら



JOMA関西セミナー-92.2/28-29 大阪福音ナザレン教会

れ、限られた時間内で充実した講義と質疑がなされた。

反省点としては、

①「JOMA」の知名度が関西ではまだ低いので、案内の段階で一般にJOMAを紹介していく必要がある。②準備期間が短く、分科会の講師の変更に対応できず、ある講師には直前に依頼して迷惑を掛けた。③一つの分科会の発題内容に対して抗議があった。「ある講師の神学的主張が結果的に他の教派の立場を否定する印象を与えて一部の方々には不快感を与えた。」

感謝点としては、

①クリスチャン新聞、近畿放送伝道協会ニュース、大阪ケズミックのチラシなどで宣伝が繰り返されたことが参加者動員に効果があった。②地元の教会の牧師たちによって実行委員会が結成されたので、地域に密着した案内ができた。③分科会の種類、講師ともに充実していたことが参加者にとって魅力であった。また、レジュメが準備されたことも良かった。④主講師のユセフ・ロニー師は、関西では知名度が低かったが、素晴らしいメッセージを下さった。献身的な状況が起ったが、参加者の二人の医師の方々が即座に対処して下さいました。⑤会場については、地理的關係、収容人員などすべて最善であった。⑥関西エヴァンジェリカル・ホームが素晴らしい特別賛美で宣教大会を盛り上げて下さった。

総予算86万余円も13団体からの協力献金と席上献金、レジュメの売上金などで満たされ感謝でした。会長の安海先生には準備の時から、セミナーの期間まで幾度かご足労いただき、ロニー師の通訳などご奉仕に心から感謝しました。近い将来、再度、関西地区で、このような具体的なテーマのもと、世界宣教セミナーと宣教大会が開かれることを心から願う声が多数あったことを付記し報告とします。

宣教とビジョン

JOMA加盟団体の現在の宣教師派遣
状況と将来ビジョン

アジア福音宣教会

I. 現在の宣教師派遣状況

アジア福音宣教会は、宣教の働きと使命をアジア全体にもって働きを進め、諸教会に仕えてきております。歴史的には、特に台湾での宣教に重荷を持って今まで何人かの宣教師および宣教師家族を派遣してきました。現在は、二人の婦人宣教師を派遣しています。

A. 鷹羽富美子宣教師

日本福音自由教会の諸教会を中心に支援を受けて台湾で宣教の働きをしてきています。長い間、台湾の原住民の牧師、伝道師等を養成する台湾基督長老教会玉山神学書院で教師として奉仕してきました。しかし、現在は、その働きを終え、香港福音自由教会の台湾での開拓伝道教会である中歴播道教会で、伝道と牧会の奉仕に従事しています。

B. 松元節子宣教師

台湾基督長老教会總會の下で、台湾原住民の諸教会の婦人層を中心にリーダー訓練や指導に当たってきています。かつては全台湾をその奉仕の場としていました。現在は、東部地域に範囲をせばめて奉仕に当たっています。特にここ数年は、下建和教会(台東市)の教会建設の働きを中心に奉仕をしています。若手の女子のリーダー訓練と励ましに重荷を覚えるの奉仕となっています。

II. 将来の計画・重荷・ビジョン

A. 新しく宣教師が起こされるようにと祈っています。台湾での宣教での働きは、特に原住民への伝道(都市部、山地部)のみならず、多様な働き人が求められてもいます。例えば日本語教師としての奉仕など。また、客家の人々への伝道の働き人が日本からも起こされるようにと願って祈っています。

B. 台湾宣教への関心と重荷をもっておられる日本の教会の兄姉を、台湾の諸教会への短期訪問というミッションツアーを今後も継続して計画していきたいと考えています。

C. アジアの諸国に宣教のニーズに応えていけるようにと願っています。台湾での働きのみならず、フィリピンはじめ他のアジアの諸国への宣教のビジョンをもって備えていきたいと願っています。

インマヌエル綜合伝道団・国外宣教師局

I. 現在の宣教師派遣状況

インマヌエル綜合伝道団では、現在16名の宣教師を派遣しています。

A. ケニア

ケニアでの宣教活動は、1970年以来で、最初は田中敬康・泰子(召天)宣教師一家が、ケリチョにある神学校で教鞭を取りつつ、ケリチョ教会の開拓に従事。1979年からは、竿代照夫・皓子宣教師一家が、現在に至るまで、ナルクに拠点を変えて教会建設に携わっている。この働きは、エンガシユラ、キャプテンボアの支部教会も生みだし、竿代宣教師は、現地人の牧師を指導しつつ教区長てきな立場で、3教会の働きに携わっている。その他に、連盟関係にあるWGM傘下の神学校の理事も勤めている。1988年からは、WGMテヌウエック病院での医療活動にも加わり、三上喜恵子(帰国)、富沢香宣教師が看護婦として労している。

B. パプア・ニューギニア

1976年以来の宣教地で、当初から相原雄二・聖子宣教師が、インマヌエル綜合伝道団と連盟関係にあるウエスレアン・ミッションとの協力関係に於て労している。第一期の3年間は、山岳地帯の飛行機でしか行くことの出来ないフグワという宣教基地に於ける伝道活動とPNG文化へのオリエンテーション。第二期以降は、PNG第2の都市ラエにおける開拓伝道・教会建設の働き、建物の取得と共に、その建物の以前の持ち主から、保育園活動の権利も譲り受け、幼児の伝道にも従事。現地人への働きの引き継ぎ目指して、現地働き人の訓練に専念中。

C. フィリピン

1979年以来。最初は、現地ウエスレアン教会の要請に基づき、ロサリスにある神学校で教鞭を。現在、その働きを一時的に退いて、蔦田緑乃宣教師は、マニラ在のセミナーにおいて修士の学びを修めつつある。また、山岳地帯のシニップシップでは、1988年以来、梅田昇・登志枝宣教師一家がグレー・マウンテン・アカデミーの神学校部門 責任者として奉仕中。村落伝道に従事。

D. ボリビア

1984年以来、三森邦夫・加寿子宣教師がWGMの要請を受けて、日系人の中で伝道・教会活動に携わっている。最初の5、6年間は日本人入植者のいるサンファンでの家庭集会を中心としての働きで、ローマ・カトリック教会からの改宗者が起こされた。最近、働きをサンタクルス市の日系人に働きの焦点を移し、日系人の実業家たちの間での伝道を目的として「福音センター」を建設。そこを中心

とした働きは、今期第3期の働きに掛かっている。

E. 台湾

1966年、戦前日本で神学教育を受けた許洲木牧師によって、以馬内利台中教会が発足。現在、許牧師は引退し、教会の台湾語部の礼拝、日本語部の集会の指導ため、葛田康毅・由理宣教師一家（1988年より）、葛田聡毅・真理子宣教師（1992年より）が派遣されている。

F. ジャマイカ

1969年、平位全一・忠子宣教師一家の派遣に始まり、現在の植木英次・昌恵宣教師一家（1983年より）と引き継がれてきた働きで、神学校で教鞭をとると共に、教会での牧会、カリブ海全域での聖会などのご用に当たっている。現在、植木宣教師夫妻は、アメリカに留学中。一年後に再赴任の予定。

G. インド

1961年の宣教留学生の派遣に始まったインドでの宣教活動は、葛田公義・直子宣教師、三森邦夫・加寿子宣教師（農業技術指導）へのビザが（1979年に）拒否されて以来、インド国内に留まったの宣教活動への道は閉ざされている。しかし、南インド聖書大学院の理事に、かつてのインド宣教師、竿代信和師が就任し（1990年）、聖会講師、大学院での短期の授業担当などの活動を継続する道が開かれている。

II. 将来の計画・重荷・ビジョン

A. 現在宣教師を派遣している国々

①教会建設主体の活動に従事している国では、その働きを現地人の牧師・働き人へ正しく継承すること。

②ケニア、フィリピン、台湾において見られたごとく、将来の人材更送に備えて、各フィールドに複数家族の宣教師を送ること。

B. その他の国々に関して

①連盟関係にある2宣教団体（ウエスレアン、WGM）より、インドネア、シンガポール、東欧への宣教師派遣要請が届いている。こうした要請に応えることが最優先事として考えられている。その他にも既に、ブラジルに、指導者たちによる視察がなされ、宣教師派遣が考慮されている。②将来の宣教師候補確保のため、以前のように、インドに宣教留学生を派遣する。

日本キリスト教団海外伝道部

I. 現在の宣教師派遣状況

A. フィリピンの佐々木正明宣教師が今年3月で、宣教師としての働きと所属が終了し、4月より九州、佐世保の開拓に専念すること

になりました。

B. 中国の吉林大学で、日本語教師として働いていた木村詔子師は、8月に帰国、9月より九州、沖縄、四国と北上しながら巡回、報告します。そして、12月末に香港に派遣の予定です。

C. 佐藤信子宣教師は、香港で地元の教会を支援しながら、大陸伝道を続けています。北京語の他に韓国語も習得しているのも、特に北朝鮮国境沿いに重荷を持っています。

D. イスラエルに派遣されている樽山啓子宣教師は、ユダヤ人伝道をはじめ、邦人集会も持っておられます。今年から特に、カナダ系宣教師中心になって開校した、キングス・オブ・キングス大学（全寮制）の支援をします。

E. モンゴルには北村彰秀師がモンゴル大学で言語研修中です。数年前からモンゴル語の新約聖書の翻訳にとりかかり、今年末には、新約聖書の一部を分冊として新生運動より、出版の予定で準備を進めています。

F. 台湾山地伝道の支援のため教師を短気に派遣しています。その働きは、山地教会の巡回伝道と信徒、教師大会の支援です。

G. アメリカのカリフォルニア州サンノゼで邦人伝道をされている石原正治牧師と人材派遣などを通して交流を持っています。これからは、更に具体的な支援をする予定です。

II. 将来の計画・重荷・ビジョン

A. 海外伝道部の将来計画としては、『アッセンブリー1999計画』で、250の教会伝道所と2万信徒を目指しています。だとすると、宣教師も現在の2倍以上の派遣が可能で。

そこで、さらに多くの国に宣教師を送るために、宣教大会、聖会などでアピールして、人材の発掘と育成を図る予定です。これまでは、宣教師の個人的なビジョンによる宣教地が選定されてきました。そのためにバランスを欠き、禁宣教国に集中する結果となりました。

そこで、今後は、個人のビジョンと導きを尊重しつつ、広い視野で神が、我が教団を通してなさせてくださる業を求め、具体化していく予定です。

B. モンゴルは、更に宣教の扉が開かれ、モンゴル大学に留学中の北村師が宣教師として、入国が許されることを願っています。それに、新約聖書を翻訳し逐次分冊を出版する計画をしています。特に聖書出版には、当教団だけでなく、何等かの方法で教派を超えた働きになるならば、と考えています。

沖縄アジア宣教協力会

沖縄アジア宣教協力会は1985年5月に設立されました。

その歩みは、草の会オリブ山病院のクリスチャン有志により1981年5月、世界の宣教師とその家族のために祈る集いから始まりました。そのメンバーは自らも、一人でも多くの人に福音を伝えようと、僻地・離島に福音を伝えようと映画伝道をしました。世界宣教への祈りがさらに導かれ、1982年、特に迫害下ソ連のクリスチャンに励ましの手紙を送る事が祈りと共に数回なされました。さらに積極的働きをするように導かれ、1985年3月、香港教会と交流し中国家の教会に17名の者が聖書を運ぶ事を奨励とし、沖縄アジア宣教協力会の設立へと発展しました。日本の最南端に位置する主の群れとしてのアジアの諸教会と交流し協力して主の業を進めて行きたいとの願い一同の上にと与えられたのです。毎年1～2回の海外教会との交流、宣教地訪問を通して、メンバーの意識が広がり具体的祈りと支援がなされるようになりました。これまでに、中国家の教会へ聖書を運ぶこと4回、香港教会訪問3回、台湾教会訪問4回、タイ国教会

訪問がなされました。

またアジア宣教大会を県内教会と協力して年2回行ない、世界宣教の必要性をアピールしてきました。特に日本から派遣されている各教団の宣教師を機会あるごとに御招きして宣教報告をしていただき必要性をアピールしています(毎年6回程)。1990年からはソ連への聖書を送る運動を始めこれまでに多くの方々の協力で7600冊をロシアの各地に郵送しました。現在毎月、17か所の団体、宣教師に支援協力を行なっています。1991年4月より短期の技術宣教師を育てる導きが与えられ、沖縄宣教師訓練センターが設立されました。医療、教育、農業、建築、その他の専門技術を持つ方が異文化圏で良い働きができるように訓練される事を願い設立されました。働きの一つ一つは小さいものですが南に置かれた主の群れとして、主が祝福し用いて下さることを願っています。どうかこの働きのため覚えてお祈りください。

沖縄アジア宣教協力会 顧問 田頭 政佐
会長 斎藤 清次
書記 真壁 朝貞
会計 比嘉 一

世界福音同盟宣教委員会 (W.E.F.) の報告

福田 崇

世界福音同盟宣教委員会主催による、宣教協議会が1992年6月15～19日に開催された。会場は、次の週に予定されていた総会と同じマニラであった。参加者は、約100名で、教派の宣教部の代表の人々、宣教団の代表の人々、各国の福音同盟宣教委員会の代表の人々、聖書学校・神学校の宣教師訓練の関係の人々などであった。

テーマは、「相互依存の協力関係に向けて」であった。セオドール・ウィリアムズ師(インド福音宣教会会長・世界福音同盟総会議長)が、毎朝、ピリピ書から聖書講解をされた。ピリピ書を協力の面からもう一度学ぶことが出来た。

協力について、15名ほどの方々が、用意してきた論文を読まれた。その後で、討論の時間も十分にあり、内容を深めることが出来た。世界の各地で戦っている現実の中

での、真剣な話し合いであった。日本からの小川国光先生がペーパーを読まれた。ペーパーのトピックは、協力のモデル・協力の種類・宣教師訓練・宣教師訓練の国際化・テントメーカーなどであった。

世界福音同盟宣教委員会として、以下の目標を採択した。

1. 宣教師訓練を促進し、訓練センター間の交わりを促す。
2. 宣教師訓練協議会を開催する。
3. 宣教師の家族について調査を進める。
4. テントメーカーの働きについて、本を出版する。
5. 福音的な宣教団体のリストを作成する。

会議にありがちな、討論のみというのではなく、礼拝や祈りに多くの時間をさいて、共に祈ることが出来た。世界のいろいろな課題について、直接それらの人々から聞いて、しかも一緒に祈ることができ感謝であった。キリストの体に属するお互いが、もっとお互いのために祈る必要性を覚えさせられた。アジア・アフリカ・南米から、多くの宣教師が送られていることを知り、主に感謝した。

今、ロシアでは…

「ミッション・宣教の声」の主幹よりのレポート

「ミッション・宣教の声」主幹：黒田 禎一郎

「主がシオンの捕われ人を帰されたとき、
私たちは夢を見ている者のようであった。」

～詩篇126:1～

神が現在ロシアでしておられる御業は、驚くべきことである。私はこれはまで16年間共産圏伝道をさせていただいた。しかし、シベリヤの現実には正しく夢を見ているようである。今夏、人口70万人の都市チューメンにおいて、アイス・スケート場を会場に多くの人々が集まった。信仰決心者420名である。私はチューメン第一刑務所にも行き、百数十名の極悪囚人を前に伝道が許された。大多数は囚人たちばかりである。しかし7名の人々が涙を流して悔い改め救われたのである。

厳寒の刑務所タボルスクにおいては、かつての共産党新聞「プラウダ」（真理の意）の記者が、私の元に取材に来た。私の宣教活動を記事にするためだ。又その婦人記者は聖書。信仰書が欲しいと、集会後アンケート用紙に記入もした。近くの川ではバプテスマ式も行なわれた。7月とはいえ、ツンドラ地帯の真中にある川の水はまだ冷たかった。しかし、そこで白衣に身を包んだ受洗者70名が、次から次へと水に入り、主イエス・キリストを信じた証しである主との契約を結んだ。まわりには多くの人々が集まり、熱心に神のみことばに聞き入っていた。この地では数年前まで、多くの牧師や長老たちが、主の御名のために獄中にいた。しかし、これが今のシベリヤの現実であることを直視したとき、

それはわたしにとって夢を見ているようでもあった。

モスクワから東へ約二千キロの地サレハルトには、今も悲惨な傷跡が残っている。ここから北には鉄道もなく、舟で囚人を各地の収容所に送ったのだ。このシベリヤからウラル地方にかけて「収容所群島」と名付けられた強制労働収容所あとがある。そこには一千万人近い人々が送られたという。どれほどの聖徒たちが、殉教したか誰も知らない。

さて、シベリヤの現実を書くにはかなりの時間が必要だ。今夏、私はロシア各地で多くの方々から依頼を受けた。それはそれは先ず第一に祈りである。大混乱の社会情勢下で、キリストの教会がつづいて神の栄光をあらわすことができるように。第二に、日本から宣教師（聖書教師・伝道師）を送って欲しいという要望だ。広大なロシアには、福音未伝地帯がまだまだある。そして、みことばを正しく教える教師が必要だ。第三に、会堂改築や伝道用自動車のために経済支援を求めている。この三点をロシアの聖徒たちは、日本の教会に頼っている。現在、日本サポートでC I S内を伝道のために自由に巡回できる時代だ。私は、日本人からマケドニアの叫びに応答して、立ち上がり、出かけていく、神の器が起こされることを切願している。



☞チューメン刑務所改心した囚人と

☞タボルスクの川で
バプテスマを受ける人々

JOMA 協会報告

加盟14団体全代表の出席のもと、4月13日お茶の水O.C.Cビル会議室にてもたれ、次のことが決議されました。

1. 海外宣教セミナー
今年度は、昨年大阪（関西）について東海（名古屋）九州、東北、北陸の順で検討、地元の教会の協力の上に2、3月頃の前定で行なう
2. JEAとの協力強化
具体的に協力について話し合いがなされた。今後、話し合いを継続していく。
3. 新加盟団体審議
沖縄アジア宣教協力会から加盟の意思表示があり、資料・申請書提出後、条件を満たした時点で新役員会のもとに入会を承認。
4. 事務所の移転。
5. 事務局及び事務局長人事について検討していく。
6. WEF総会に出席された竿代師（インマヌエル）、福田師（ウィクリフ）にJOMAを代表していただく。
7. ハンドブックの販売の促進について。500円で内部販売。
8. 稲垣師の謝礼について。
9. 新役員にウィクリフ、リーベンセラが入る。

◆ 編集後記 ◆

★ 皆様お元気で主の業に励まれておられることと存じます。ニュース40号少し遅れましたことをお詫びいたします。

今年新しく加盟されました、沖縄アジア宣教協力会のお働き、さらに祝されます様。又、今後JOMAの交わり、協力がさらに豊かにされます様、お祈り下さい。

★ JOMA加盟を御検討中のミッション「宣教の声」主幹の黒田禎一郎師より貴重な報告をしていただきました。開かれた旧ソ連圏内への宣教の為、祈ってまいりましょう。

★ 来春のJOMA宣教セミナーは、東海地区（名古屋）で開かれる予定で準備がすすまられています。よろしくお祈りください。

1991年度会計報告・1992年度予算案

項 目		91年度予算	91年度実績	92年度予算
収入の部	会費	672,000	576,000	720,000
	献金	150,000	169,075	150,000
	雑収入	275,000	214,103	375,000
	前年度繰越金	0	116,803	217,107
計		1,097,000	1,075,981	1,462,107
支出の部	セミナー費	50,000	50,000	50,000
	文書費	240,000	225,740	325,000
	役員会費	100,000	40,875	70,000
	事務所費	300,000	300,000	360,000
	事務費	250,000	217,229	250,000
	総会費	35,000	25,030	65,000
	総主事準備金	100,000	0	100,000
予備費	22,000	0	242,107	
繰越金		0	217,107	0
計		1,097,000	1,030,184	1,462,107